

にかほの人と外からの人で
新しいにかほの未来を描くために

移住リエゾンとして活動し、3年が過ぎようとしています。任期があと2カ月となった今振り返ると、私自身が「にかほのことを深く知り、感じた魅力を発信する」ということを繰り返す中で、市内の魅力的な方々との繋がりをいただけたことに感謝の気持ちがあふれます。

にかほ市は、積極的に移住促進に取り組んできた結果、全国の自治体を対象とした「住みたい田舎ベストランキング2025年版」では複数の部門にランクインしています。移住定住の最大のポイントは「人」と繋がることだと、私自身がかほ市への移住を希望していた移住者だからこそ痛感しており、ここに暮らすみなさんの協力なくして移住定住政策は進められません。

『にかほ暮らしサポーター』の方々を含め、にかほ市



移住リエゾン＆商工政策課のメンバー

の魅力である「ここに暮らす人」として、移住サポーターに協力してくださるみなさん、いつもありがとうございます。

2050年、にかほ市の人口は半減し1万人前後になると予測されています。「移住」だけで解決できることではありませんが、移住定住推進はここに暮らしている人と外から来る人での「にかほ市の未来を描く」ための方策の一つだと思います。

さて、総務省が行った移住者へのアンケートによると、移住する際に重視したこととして「住むための家の情報が得られること」が上位項目にあがっていました。今は家の情報はインターネットで探す方がほとんどですが、にかほ市の情報量はまだまだ少ない状況です。今後所有物件をどうしようか迷っている方は、にかほ市に住みたい人に住み継ぐことも選択肢の一つにご検討いただけると嬉しいですね。

最後になりましたが、卒業後も大好きなにかほに貢献できることを行っていきたいと思っています。



石井 智代

Tomoyo Ishii
勤務先：商工政策課
出身地：千葉県

循環サイクルと人々の暮らし

■掛魚まつり

2月4日恒例の掛魚まつりが開催されました。今年は久方ぶりにタラを担いでの練り歩きも行われ、大ぶりのタラが金浦山神社に16本奉納されました。寒空の中、市内外から多くの方々が見学に訪れ、準備された熱々のタラ汁をおいしそうに食べて身体を温めていました。

近年、地球温暖化の影響による海水温の上昇などもあり、それまで獲れていたハタハタやサケが獲れなくなったり、逆にそれまで南方の海域で獲れていた魚が獲れるようになったりと、漁業を取り巻く環境が著しく変化しています。そのような中ではありますが、今年は相当数のタラを奉納することができ、見事な祭りだったと思います。

■海と日本プロジェクトin秋田県

日本財団が全国463カ所で展開している「海と日本プロジェクト」のうち、県内イベントの一つ「鳥海山が産み出す海産物！あきたアワビ調査隊」が、市内を会場に7月24、25日の2日間にわたり開催されました。参加者は県内の小学5、6年生児童20人で、鳥海山と海とのつながりによって生み出される恵みについて、アワビをテーマに学習しました。

鳥海山から流れ来るたくさんのミネラルと養分をたくわえた伏流水は豊かな海の源となり、たくさんのお魚類を育んでくれます。これまでににかほでは

たくさんのおアワビや岩ガキが獲れました。しかしながら、近年は海水温の上昇や藻場の減少などにより、これらの漁獲量は減少しています。

調査隊の児童たちは、アワビの種苗生産施設を見学し、アワビや岩ガキの生息する岩場がフジツボや泥などで覆われ、エサとなる海藻が育ちにくくなっていること、岩ガキが岩に付きにくくなっていること、その対策として、漁師の人たちが岩盤を清掃するなど環境改善に取り組んでいることを学びました。

■KDDI地域共創室との意見交換

先日、KDDI地域共創室の方々と話をする機会がありました。KDDIはICT企業としての強みを生かし、地方自治体と一緒に地域課題の解決に取り組んでいます。いま全国で228のプロジェクトを実施しており、そのうちの一つに「舞鶴市丹後とり貝スマート漁業実証」があります。これは年により豊凶がある京ブランド「丹後とり貝」養殖の安定生産と増産にむけてICTを活用していることとする取り組みです。

話の中で「ハッ！」とさせられた部分があります。それは「貝類や藻類全般の減少の原因の一つに、海中のリンやカリウムといった栄養分の減少があげられていて、その理由として下水処理施設の普及によって人々の生活排水に含まれていたリンやカリウムといった栄養分が海に流れ込まなくなったことが考えられる」という内容です。

■人々の暮らしがもたらすもの

ひるがえってにかほ市を見たとき、近年のアワビや岩ガキの不漁の原因は海水温の上昇や藻場の減少だけでなく、同様に海中の栄養分の減少にも原因があり、あくまでも私見ですが、人々の健康を守るための取り組みが、もしかしたら予想外の副作用をもたらしていたのかもしれない。

いま市内では高齢化や後継者不足により離農する農家が増えています。それに伴い耕作放棄地もどんどん広がっています。かつてコメ作りの中で堆肥が使われ、その栄養分が海中に流れ込んでいました。人々の営みの中で出された栄養価の高い排出水が海藻類の成長に必要不可欠なものだったとすれば、里山を守ることは海を守るということになるという話に十分な説得力はあると思います。

もちろん下水処理など衛生環境を整備することはとても大切です。言いたいのには、私たちの暮らしもまさに自然の営みの一部であり、持続可能な循環型社会を実現するには関係のないと思われることにも気配りをしなければならないということです。

にかほ市長
市川雄次

空き家の利活用についてご相談ください

1つでもあてはまるようでしたら、一人で悩まずにまずは気軽にご相談ください

- ◎仏壇や家財道具があるし…倉庫として使っているが…片付けられない…
- ◎築年数もだいぶ経ってるし、手放すにしても売れないと思う…
- ◎草刈りや屋根の修繕、県外に暮らしてるからどうなっているのか不安…

相談はコチラからも

例えば、こんな制度の利用方法もあります

空き家情報バンク(売却・賃貸)

空き家バンク登録者に対して家財道具等の処分に要する費用の2分の1を補助します(上限10万円)

空き家家財道具等処分費補助金

にかほ市内のお家を探している方に情報提供する制度です

お家・空き家の相談について

お電話や直接、窓口にお越しいただくでも大丈夫ですし、定期的に相談会や座談会も開いています。市の広報などでお知らせしています。いつでもお気軽にご利用ください。

お問い合わせ先 にかほ市 商工政策課・移住リエゾン
TEL:0184-43-7600 MAIL:shoukou@city.nikaho.lg.jp

お問い合わせ先 にかほ市 商工政策課・移住リエゾン
TEL:0184-43-7600 MAIL:shoukou@city.nikaho.lg.jp

市民と行政の架け橋 広報 にかほ 4

市長
コラム

創造を
想像する

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

5 NIKAHO City Public Relations Magazine